

日本建築学会 環境工学本委員会 音環境運営委員会 音響数値解析小委員会  
2005年度 第3回委員会 議事録

日時：2005年12月9日（金）10:00～14:00

場所：建築会館

出席者（11名，敬称略）：

大鶴徹（主査），坂本慎一，佐久間哲哉（以上幹事），大久保朝直，河井康人，富来礼次，堀之内吉成，榎本貴之，安田洋介，横田考俊（以上委員），小坂慶之（オブザーバー）

書記：安田洋介

配布資料（8部）：

資料 3-1：第3回委員会議事次第（大鶴）

資料 3-2：第2回議事録（案）（安田）

資料 3-3：ベンチマーク問題に関する報告：B0-1T，B1-3F（富来）

資料 3-4：ベンチマーク問題に関する報告：A1-5F，A0-5F（堀之内）

資料 3-5：BEMとFEMにおける入力音源波形について（河井）

資料 3-6：討論会実施計画書（大鶴）

資料 3-7：ASJ 春季発表会申込内容確認（大鶴）

資料 3-8：平成18年度基盤研究（A）（一般）研究計画調書（大鶴）

● 議事概要

0. 開会にあたって

- ・ 配布資料の確認.
- ・ 前回（第1回）議事録（資料3-2）の承認.

1. ベンチマーク問題に関する報告

解析結果の報告（資料3-3～3-5）及びそれらに関する議論が行われた.

- ・ A1-5Fの円筒付障壁の問題（資料3-4）は，全面吸音であり現実的でないこと，また空間分割する際の円筒面の扱いが難しいことから，「T型または逆L型、上面部のみ吸音」という問題に差し替える．大久保委員が担当する．当面は旧ページにリンクを張るものとし，TOPページにリニューアル情報を掲載する．
- ・ A0-5Fの拡散体の問題（資料3-4）は，算出する音圧値が直接音を含んでいるのかわからない曖昧な記述であったため，「直接音を除いた音圧」であることを明記する．横田委員が担当する．（同様の仕様であるA1-2Fも同様である．）
- ・ 河井委員より，過渡応答解析での音源特性に関して説明があった．速度ポテンシャル

ル、音圧、振動速度、加速度の関係、及びインパルス応答を求めるための体積速度の設定について説明がなされた(資料 3-5)。差分法も含めた各種解法間での統一的な音源の設定について、河井委員を中心に更に検討することとなった。

## 2. シンポジウム開催に関して

大鶴主査より、シンポジウム開催及びそれに向けての計画に関する説明(資料 3-6)。決定事項は以下のとおり。

- ・ 開催日程は 2006 年 3 月 13 日(月) 13:00-17:00(音響学会春季研究発表会の前日)、開催場所は建築会館とする。
- ・ シンポジウムは、非アカデミックな内容も含んだ実務的なものとする。
- ・ 構成は、発表者ごとにプレゼンテーションとディスカッションを設けることとし、最後に一括したディスカッションは特に行わない。
- ・ 発表を、鶴氏(日東紡)、石塚氏(清水)、芹川氏(松下)、池田委員(ヤマハ)、榎本委員(サイバネット)らに依頼する(順不同)。石塚氏には大久保委員から既に依頼済み。芹川氏には榎本委員から依頼する。そのほか、委員の一人が本小委の活動を説明する。
- ・ 会費は会員 1,000 円、会員外 1,500 円、学生 500 円(いずれも資料代含む)とする。
- ・ 発表者のうち、会員外の方には基本的に謝礼(旅費)を差し上げる。
- ・ 日本建築学会主催、建築音響研究会協賛とする。
- ・ 資料はパワーポイントの印刷程度とする。締め切りは 1 週間前あたり。

## 3. 2006 年音響学会春季研究発表会スペシャルセッションについて

大鶴主査より、表題の件について説明(資料 3-7)。本小委のほぼ全委員の連名にて数値解析ベンチマークの整備について発表することとなった。

## 4. その他

### i) 平成 18 年度基盤研究(A)(一般)研究計画調書

- ・ 大鶴主査より、表題の研究計画調書に関する説明がなされた。

### ii) 次回(第 4 回)委員会日程

日時: 2006 年 3 月 13 日 11:00~13:00

場所: 建築会館

以上。